

令和7年度第3回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和7年7月24日（木）午後1時30分～4時15分

会場：青谷町総合支所 第1，2会議室

【出席委員】

青木綾、秋田典昭、井上智朗、浦島考雄、大谷 茜、小谷峻一、斎藤智範、田内伸一、棚田美紀雄、長谷川優、浜野幸子、山田由理子

【欠席委員】

なし

【事務局】

＜青谷町総合支所＞

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、山田地域振興課課長補佐

＜政策企画課地方創生推進室＞

西田地方創生推進室長、遠藤地方創生推進室長補佐

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 議題

【報告事項】

- （1）第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略について
＜地方創生推進室＞（資料1～4）
- （2）総合支所改修工事について（資料5）

【協議事項】

- （1）未来プラン③安心して暮らせる中山間地域づくりについて（資料6）
- （2）未来プラン④地域福祉の充実による元気なまちづくりについて（資料7）
- （3）地域おこし協力隊について（資料8）
- （3）委員提案について（資料9）

4 その他

5 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 第12次鳥取市総合計画及び第3期鳥取市創生総合戦略について

<地方創生推進室>

事務局より説明

鳥取市におけるまちづくりの最上位計画である「鳥取市総合計画」、地方創生や人口減少対策を効果的に実行していくための重点施策をまとめた「鳥取市創生総合戦略」について、令和8年度から開始する計画の策定を進めている。

これまでに実施した市民アンケートやワークショップ等を通じて、市民の意見を反映した基本構想等の策定状況および内容について、未来会議委員に説明するもの。

【委員】子どもが出来た人に対しては様々な支援が手厚くされているが、その前段階として、独身の方や若い世代の方たちが暮らしやすく、集まってくるような環境を整えてアピールしていく事で、結果的に人が集まって人口増に繋がるのではないか。

【事務局】若者女性に選ばれるまちということは地方創生2.0でも大きく取り上げているが、市として実行していくためには働きやすい職場環境やまちの魅力を発信して、若い世代の方に移住していただけるような施策を考えてしっかりと打ち出していくべきと考えている。

【委員】出生率を本当に底上げしたいなら、普段から食べ物や健康に関する情報として、女性の妊娠しやすさや不妊治療に役立つ情報を少しずつでも発信することが重要だと考える。

【事務局】地域資源を生かした食と健康の魅力づくりも重要である。特に鳥取市は自然環境も良く食も豊富なところなので、そういった強みを生かすことで本市の魅力を感じて住み続けていただけるようにアピールしていかないといけ

ない。各部署に意見を伝えて進めていくようにしたい。

【委員】今の若年層にとっての就職は、企業の情報よりも「働き方」そのものを非常に重視しているので、そこを掘り下げた方が注目されるのでは。

【事務局】若い方に起業していただけるような取組も必要と考えているので、これまでも取組んでいるがより強化していく必要があると考えている。

【委員】デジタル技術の活用と格差解消となっているが、どういう格差の解消をするのか。

【事務局】ハード面の整備も進めているが、デジタル化を進めても高齢者をはじめとしてデジタル機器が使えない場合には手続きができないので、スマホ教室などの実施により、皆さんがお持ちのスマホの様々な機能を使えるようになれば、電子申請やデジタルの手続き等が可能になる。そういった取組によりデジタル利用の格差を解消しようとするもの。

【委員】他市では行政だけではなく、民間が中心となってまちづくりを進め人口を増やしている例もあるので、女性の活躍や民間が力を合わせることも、我々地域住民として学ぶべきものがある。

【事務局】行政だけが取組を一生懸命進めても、やはり市民、民間企業も一体となって取り組んでいく必要があるので、産官学等の連携をこれまで以上に強化する必要がある。

【委員】鳥取市の魅力を全国に発信していくことは、移住のみならず全国の企業にも鳥取にはいい人材がいて、一生懸命仕事して協力的な人がいるので、そういう魅力も市としてどう出していくかが重要である。

【事務局】情報発信はこれまでも行ってきたが、やはり発信不足というところもあったと思う。ホームページだけではなく SNS や YouTube、公式 LINE など様々な方法で情報を出していき、幅広い年齢層に魅力が届くような発信をしていく。

【委員】日々の生活が忙しかったり、現状に満足している人は 10 年後と言われても興味をあまり抱けない。危機感を持って読んでもらえるメッセージ性が必要。他にもインフルエンサーによる鳥取のいいところ発信だったり、フォロワーの多い人をピックアップして PR しては。行政が発信して話題になっている

のを見たことが無いから、どういう手法で発信するのが効果的に届くのか検討しては。

【事務局】戦略的な広報の一環として、影響力の高い、例えば「新しい学校のリーダーズ」とのコラボPVを制作した。これからも色々工夫しながら広報の活動の充実を図っていく。

(2) 総合支所改修工事について

事務局より説明

平成5年（旧青谷町制）に建築した庁舎であり、築30年を経過しており、設備の老朽化や耐震対応として実施するもの。

工事完成は11月末を予定しており、改修後の執務室での業務開始は12月22日（月）から。

工事のためコミュニティセンター図書室を一時休室する（8/25～11/上旬）。休室中の図書の予約・返却など業務の一部のみ分室事務室で対応する。

【委員】改修工事で減築となれば、更地が広くなりドクターヘリのヘリポート用地が確保できるのではないか。

【事務局】減築はするが、その後に防災備蓄倉庫を新設するので、面積はそれほど変わらないと見込んでいる。

【委員】授乳室という言葉に非常に抵抗がある。以前父親が赤ん坊を連れて授乳をする時、授乳室と書いてあることで非常に入りにくいという意見をいただいたので、別の表記方法を考えていただきたい。

【事務局】施工時にはご意見のとおり配慮した表記としていきたい。

【委員】室内についても目隠しのカーテンであったり、スペースが区切られているといいし、椅子も必要になる。利用が被った時に使用中であることが分かる作りが望ましい。

【事務局】室内の作りについては保健師等と協議しながら、使い易い形としていきたい。

【委員】休室中に他で図書を借りるとすれば、最寄りはどこで借りられるのか。

【事務局】一番近い所では気高図書館がある。実際に本を見て選ぶのであれば気高図書館へ行っていただいた方が良い。予約本などは図書館のウェブページから予約が出来るので支所の窓口で受取りできるような対応としたい。

【委員】防災備蓄倉庫の大きさはどれくらいあるのか。

【事務局】約5 m×5 m程度となる。

【委員】図書室休室のお知らせは町民にはどういう形で周知していくのか。

【事務局】支所だよりに掲載する他、日程が近くなってから音声告知放送を流していく。

<協議事項>

(1) 未来プラン③安心して暮らせる中山間地域づくりについて

事務局より説明

まちづくり協議会の活性化は、協働のまちづくり助成金および一括交付金による活動支援を行うほか、まち協連絡会議を開催し助言や情報共有を行う。

災害に強いまちづくりは、浸水対策として亀尻以北のエリアの流路の調査設計を行う。支所改修工事に伴う防災備蓄倉庫の新設は令和8年度。

生活交通は共助交通の導入について検討を進めると共に、地域住民の意見・要望を聞きながら青谷バスの運行改善に努める。

地域防災力の強化は自主防災会等の活動助成による支援に努める。

【委員】3号樋門に導くための水路はかなり古いものがずっとある。集落の裏手側の水路というのはかなり昔作られた石垣とか土羽などのため、その辺りを導くための改修は考えているか。

【事務局】予算の中には入っていないが、水路が古くなっているのは承知しているので、状況を見ながら対応していきたい。

【委員】青谷バスについて、将来的に住民主体の共助交通への転換を視野にという話があったが、具体的に何年後とかのスケジュール感がわかっていたら教えて

いただきたい。また、関係組織に話をしているとのことだが、どういう方々にお話をして、現時点でどういうふうに進んでいるのか。

【事務局】共助交通への移行期限は今のところ定めておらず、あくまでも当面の間とされている。関係組織は、今各地区のまちづくり協議会と話をしている。まちづくり協議会は地域課題を吸い上げて、その課題解決に向かっていく組織で、地域住民の生活交通等を確保することはまさに地域課題だと考えており、まずはまちづくり協議会に声かけしているところ。最近の状況ではまちづくり協議会も足並みが揃ってるわけではなく、日置地区や勝部地区が先進地を視察して意見交換したと聞いているので、何か動きが見えてくるか注視している。

【委員】自動運転路線バスというものがニュースになっているが、色々な方法の中にそういうことも入れてみてはどうか。都市部と違って、交通の状況が煩雑でない中山間地域の方が自動運転のメリットが大きいのではないか。

【事務局】共助交通は青谷地域の生活交通を守る方針として導入を進めているが、まち協との意見交換の中で、交通量が多くないので、自動運転の実証運行をしても良いという話があったので、交通政策課に伝えているところ。

(2) 未来プラン④地域福祉の充実による元気なまちづくりについて

事務局より説明

子育て、健康増進としてこばしまウォーキングなどの健康イベント開催に取り組む。社会体育活動の支援は、青谷上寺朗杯卓球大会、青谷正月マラソンの開催や各スポーツ団体への活動補助金を交付する。

高齢者、住民が元気に地域で活動したくなる動機付けについては、青谷町地域共生社会推進連絡会の構成団体が事業連携し、「サロンであおや（旧センターサロン）」を新たな居場所として再構築し、地域住民を巻き込んで活動を発展させていく。

【委員】社会体育活動の支援で卓球大会とマラソン大会が行われて、近年参加者が増えているようだが、この参加者のうち、青谷の町外からの参加、もしくは鳥

取市外からの参加者の人数が把握できてるか。

【事務局】正確な集計は出来ていないが、参加者のうち 8 割 9 割は町内からの参加で、町外からも帰省された方や知り合いに誘われて参加された方がおられると聞いている。

(3) 地域おこし協力隊について

事務局より説明

青谷地域においても、地域で活躍する人材を増やしていくためにも改めて隊員募集を進めたいと考えている。

地場産業の支援や担い手不足解消のため、人材バンク担当として事業者や町内の働き手のマッチングに取り組むほか、ワーキングホリデー企画に取り組む。

定住人口の増進のため、移住者や住民との交流企画や、移住定住委託事業者と連携した移住希望者の支援や、町内の空き家・空き地の情報収集などに取り組む。

元気なまちづくりの一環として、地域スポーツである卓球の全国的な選手を協力隊として募集し、地域での卓球指導や、部活動、クラブ活動を支援するほか、中学校の部活動地域移行についても、学校と連携して取り組む。

以上の取組内容について、隊員募集に向けて調整を進める。

【委員】平成 29 年度と 30 年度の協力隊員がどういった内容に取り組んだのか、併せて定住に結びつかなかった要因としてどのように総括しているのか。

【事務局】お一人目は因州和紙の産業活性化として移住したが、職場などでの人間関係が上手くいかず 1 年で帰られた。もう一人は特用林産物（しいたけ）の生産振興と産業後継として移住したが、しいたけ原木栽培は季節的な産業であり、他の継続的な収益の見通しも立たなかったことから 2 年ほどで帰ってしまった。総合支所としては、まず活動する地域内で、協力隊員がどういう活動をしていくか具体的にビジョンを描いて、地域の皆さんと連携内容をしっかり協議した上で募集をかける必要があると考えている。

【委員】定住に繋がったらもちろんそれはそれですごいだが、地域おこし協力隊の最

終的な着地点を移住定住にするのはちょっと危ないと思う。1人の地域おこし協力隊にかける金額を考えたときに、3年間払って1人の移住者を獲得するのはちょっと費用対効果的にも厳しい面があるので、あくまで3年間で地域の課題としっかりと向き合って、どうするか考えた上で3年後に協力隊から仕事内容の引き継ぎも視野に入れて考えていくことが大事。もう1点は、地域住民でも担えるような事だとちょっと不満が出るかもしれないので、業務内容の差別化も注意すべきと思う。

【事務局】隊員の活動が属人的になって、活動終了と共に無くなったり、途中で帰って無駄になることがあってはいけないので、しっかり地域と連携して取組内容が引継いでいけるようにする必要がある。地域住民が担えるかどうかについても、地域の課題に合ったスキルを持つ人材を募集するように業務内容を整理したいと思う。

【委員】募集要項を見ると、都市地域から移住となっているが、近隣の市町村からは対象にならないのか。

【事務局】都市地域から過疎地域などの移住でなければ対象にならない。

【委員】ただ移住するだけでは勿体ないので、移住者目線での発信をやってもらえればと思う。他の新市域には協力隊が既に着任しているが、その方は業務内容も納得された上で、着任して継続されているのか。

【事務局】全国版の協力隊募集サイトがあるので、そこに募集条件を公開して、そちらを見て納得の上で応募されてきている。

【委員】2番目の定住人口の増進に関して、今青谷で行われている例えば定住人口の増進に関わる活動の内容や経過は、もう少し見える化出来ないかと思う。見える化できてないと、どういう問題が発生して、それをどう解決していいか取組しようがない。だから今現行の取組を可視化していくっていう意味でも、事業内容としてはいいのかなと思う。

【事務局】給与は都市地域に住む方から見て十分とはいえないが、住居に関しては行政の方で支援することとしている。

【委員】現在活動している佐治、用瀬などの隊員たちがどのような感じで動いているのか、そういった状況のお話を未来会議で聞くことができないか。

【事務局】検討する。次回以降も協力隊の話をして、質疑を重ねて理解を深めていきたい。

【委員】せっかく青谷に上寺地遺跡があって、弥生人の脳もあり全国的に史跡公園を訪れる方も県内県外からたくさん来られるので、弥生に特化して、史跡公園と連携しながら弥生文化で青谷のまちをどんどん発信して観光誘客に繋げていく取組も地域おこし協力隊でやれるのではないか。史跡マニアとか、歴史マニアの方がいたら、理解も深まるし、地域の人たちにも宣伝できる。

【事務局】史跡公園については県と市で整備しているので、協力隊の派遣についても県と協議しながら検討していきたい。

(4) 委員提案について

提案委員より説明

- ・ 地域内の農業後継者の不足と耕作放棄地対策
- ・ 耕作放棄地の増加による有害鳥獣の被害発生
- ・ 外国人観光客への多言語表記案内
- ・ 地域住民の集まれる場所、まちの未来が語れる場所の創出

【委員】研修所に来ている方と青谷に住んでいる人達の交流がもっとあると良い。地域住民の集まる場所も青谷地区の人は良いが、奥の人はタクシーが無いので飲酒できないので、タクシーと町の活性化はすごく関係があると思う。

【委員】担い手対策としては、農作業をエンターテインメント化できないか。除草などの作業を楽しみながら水田の機能や仕組みを知ってもらおう。研修所には地域からもっと積極的に行っても良いと思う。

【委員】研修所の研修生・宿泊客へのお土産物販はかちべ伝承館、青谷ようこそ館、あおや和紙工房で出しているが、いかんせん出店するのも大変なので頻回には出れない状況。

【事務局】耕作放棄地の問題は青谷に限らず日本全国どこでも起きている問題だと思う。今お米が高いことで消費者はすごく困っているが、生産現場も困ってい

る状態が続いている。県外の方が相続することによって、耕作放棄地が増えるような状態が続いていく流れもあり、中々簡単にこの場で解決できるような話ではない。一方、研修所には 42 カ国から訪問して 23 の言語が使われているので、全ての言語に対しては難しいが、英語表記ぐらいは必要かと思う。これはニーズとお金があればできる話なので検討したい。また、居場所作り、皆が気楽に集まるような場所というものは、疎遠な時代に必要な場所かと思うので、今後未来会議の中で改めて協議いただきながら解決できるものは解決し、困難なものも未来プランに加えて引き続き検討をしていきたい。

4. その他

特になし